

## 大草谷津田いきものの里 自然観察会

### 虫さん 花さん もう起きた！

岡田 敬子（千葉市）

日 時：2024年3月17日（日）10：30～12：00 天候：晴れ

参加者：11名（大人5名 子ども6名）

担当指導員：岡田敬 松本 山下、参加指導員：相吉 井上 木下 藤井

3月になって低温が続いていたが、当日は4月下旬の気温になり観察日和だった。受付で、参加者にカップと色付けようの白いシオリ（板目紙）を渡した。班分けはせず、いつもの生き物を持ち込まない、持ち帰らないの注意等をして、観察会を始めた。

Fさんがツクシを見つけた。1本だけだったので。順番に観察した。入口のケヤキに小さな蛾、ドングリを食べて成虫になった「クロサンカクモンヒメハマキ」だ。

観察路の脇に「ヒガンナムシ」の花がニョッキっと出ている。球根の大きさに「オスになつたりメスになつたりするよ」と話した。皆、驚いていた。草刈りされた広場にはフキの花、ブロッコリーの様な蕾を付けたニワトコ、オオカマキリ、ナガコガネグモの卵、「まだ生まれてないね」と参加者。

ヒシバッタ、ナナホシテントウをカップに入れて観察した。

キタテハ、キタキチョウ、ルリタテハが飛び交い、早春しか、見られないビロードツリアブが、長い口吻でタチツボスミレの、蜜を吸っている姿も観察できた。

明るい田んぼに出るとタチツボスミレ、ジロボウエンゴサク、オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウが花盛り、カナヘビが日向ぼっこをしている、Kさんが捕まえてくれた。虫カゴに入れて観察。田んぼの畔道を歩くと、オタマジャクシがうじゃうじゃいるのに、びっくりして喜んだ。観察前に、桶に用意しておいたドジョウやヤゴ、オタマジャクシ、オオタニシ、カワナ、エビを掬って感触を楽しむ時間を作った。

畔道に春の七草、ハコベ、ナズナ、ホトケノザ、ゴギョウが花や種を付けていた。花の蜜を吸ったり、花笛にしたり、シオリに、色付けしたり草花遊びを楽しんだ。スイバやギシギシを早春に食べて育つ、コガタリハムシの卵、幼虫、成虫も皆で探して観察。カエルの鳴き声、大草には4種類のカエルが棲んでいると紙芝居風に生まれる順に。今いる、オタジャクシはニホンアカガエル次に生まれる、アズマヒキガエルはひも状の卵、あわ状の卵はシュレーゲルアオガエル、田植えが終わって最後に生まれるのがニホンアマガエルで大草には4種類のカエルが棲んでいることを説明。最後に参加の子どもたち自身で観察した虫やオタマジャクシ等を元いた所に返して観察会を終えた。



色付けしたシオリ



フキの花がたくさん！



タチツボスミレ